

千葉 勉 プログラム・スーパーバイザー（PS）からのメッセージ

「革新的医療技術研究開発推進事業（産学官共同型）」は、「患者数が少ない」、「異なる業種の連携が必要」などの種々の理由から、基礎研究や創薬技術などが十分な医療開発の成果につながっていない領域に対して、産学官が連携して、画期的な医薬品・医療機器等の研究開発を行うことを目的としています。

本事業の目的は、言うまでもなく「優れた医療技術（医薬品・医療機器等）を開発して、社会に提供すること」ですが、加えて新しい試みとして重要なことは、「非競争型」の研究を支援するという点です。すなわち「非競争領域」で「産学官」が協力してプラットフォームを構築し研究をすすめ、その成果を広く社会に提供し、「競争領域」で誰もがそれを共有・利用できるようにすることが求められています。さらに今回、従来型に加えて「スタートアップタイプ」も公募されますが、これは、特にスタートアップ企業を支援するという目的がこめられています。昨今、我が国においても多くのベンチャー企業が立ち上がってきています。私自身もあるベンチャー企業のアドバイザーを務めていますが、皆さんとても優秀、熱心で、かつ魅力的な研究開発を行っておられます。小さいですが、こうした優れた種、芽を育てていくことは、我が国の医療開発を進めるにあたって、その基礎となる極めて重要なことだと考えています。

さて上述のように、本事業のキーワードは、1) 産学官共同型であること、2) 複数のアカデミアと複数の企業がコンソーシアム等を構成すること、3) 非競争領域の研究開発を実施すること、ですが、これらの点については応募を考えておられる方々から、こうしたキーワードによる制約のために応募がしにくい、というご意見をいただいていた。前回の公募に続き今回の四次公募では、こうした制約のいくつかを緩和する方向で工夫しました。

それにつけても、本課題に公募していただくにあたって私自身がもっとも重視している点は、何と言っても「シーズとニーズ」です。いくら研究の建てつけが整っていても、優れたシーズでないと結局優れた成果を生み出すことはできません。また、社会や医療現場でのニーズ（必要性）が高くなければ、その研究の成果は役に立ちません（もちろん、研究の成果が10年後、20年後に思わぬところで役立つ、ということはしばしばあることではありますが）。私自身は臨床家なので、「この研究は本当に社会や医療現場から求められているものだろうか」という点を最も重要視しています。したがって、応募に当たっては、こうした本筋となる「シーズとニーズ」を是非大切にしていきたいと思います。評価においても、表面的な研究体制だけで評価することなく、優れたシーズ、ニーズを最優先に評価したいと思います。その上で、研究開始に向けた産学連携の体制構築などについては、AMED から支援することも考えています。

以上、是非「優れたシーズとニーズ」の課題を沢山提案していただき、将来に役立つ研究基盤を創設し、研究発展の「種」を育成していただくことを切望しています。

関西電力病院 特任院長
千葉 勉